

「神のかたち」 で生きる 霊性入門

連載
10

赦しと和解

「神のかたち」を自分自身の生活の中に形作る、というテーマでお届けしています。

理不尽

詩篇五一篇はダビデが預言者ナタンからバテ・シエバの件を諷められた時に作られた詩歌と言われます。ダビデはバテ・シエバと犯した姦淫の罪を隠蔽するため、彼女の夫ウリヤを戦場の激戦区に追いやり、殺しました。それをナタンに指摘されたダビデは、詩の中で神に赦しを求めています。

ウリヤがもし新約聖書の時代に生きていたら：ウリヤにダビデを赦しなさいと言えらるでしょうか。いわば、高速道路の向こう側で見かけても、行って掴みかかり、殴りたいような関係です。それでもっこり笑って「兄弟」と呼べる関係になれば、聖書は語って

です。「赦し」は「仲直り」のことではありません。せん。

「赦し」が意味する範囲

「赦し」はあなた自身、一人いれば完結します。負債を免除されたしもべのたとえ(マタイ18・21―35)は「赦し」の理解を助けてくれます。「赦し」とは、相手から私たちに負っている負債を取り立てる権利を放棄し、私たちへの賠償責任から自由にする事です。

「赦し」の結果、相手は私に対して、何も弁償しなくてよくなり、私の側も相手からの謝罪を必要としなくなります。相手があなたに謝らなかつたとしても、悪いと思っていないとしても、あなたはその紛争関係を終わらせることができます。「赦し」は命令ですが、あなたの心のなかで生じる恵みであり、あなたと神がいれば十分です。

そのため、「赦す」ことにおいて、あなたは、あなたを傷つけた人と、必ずしも良い関係に戻す必要はありません。

「和解」とは

「和解」のイメージは、「仲直り」です。どちらが悪いことをしたのが明らかにされ、被害を与えた側は間違いを認めて、謝ります。被害を訴えている人の正しさが証明され、何らかの償い、もしくは改善が約束されます。

いるのでしょうか。

ウリヤのような立場の人にとって、それは踏んだり蹴つたりのように思えます。苦しめられた挙句に、赦し難い相手を受け入れなさい、という精神的葛藤の二重苦。なぜ、罪を犯したものが赦され、苦しんだ者から温かい抱擁を得ることができるのか。

事の大小にかかわらず、赦しの問題については、このジレンマが生じます。この点で葛藤している方々は少なくありません。今回は「赦し」と「和解」の違いについて、ご紹介いたします。

「赦し」と「和解」

ヘンリー・クラウドは『境界線』の中でこのように記しています。

「赦しと和解の区別がつけられない人は少

そして、両者は関係を回復します。

しかし、「和解」は成立するとは限りません。相手からの謝罪と償いは得られない可能性があるからです。相手は悪いことをしたと思っていないかもしれない。自分がやったことを忘れているかもしれません。

たとえば虐待的な親であったり、横暴な上司であったり、あなたを裏切つて消えた友人達と再び良い関係をもつ可能性がどれだけあるのか。場合によっては、相手はもう死んでいるかもしれません。

神が私たちに命じていることは、相手と状況次第の「和解」ではないのです。

真の問題解決

もちろん私たちは、「和解」の可能性を信じ、寛容な心をもつ必要があります。同時に、自分自身にとって問題の本当の解決とは何を指すのか、考える必要があります。自分の心に耳を傾け、嘘をつかないことです。痛みが回復する過程を省略しても、問題は解決しません。

あなたの心の整理、状況の整理に時間をかけてください。相手がいる場合は、十分な信頼関係を構築することができるまで、安全な距離を取ってください。

同じ過ちをお互いに繰り返すことがないように、自分と相手の行動が改善を伴って

池田モース優美

いけだ・モース・ゆみ(二〇一九年、米ハイオラ大学タルボット神学校バストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニストリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

なくありません。：赦すとは自分の境界線

をもう一度取り払い、相手に自分を傷つける力を与えることだと勘違いしてしまうために、赦すことが恐くてできない人が大勢います。(二十四章 境界線への抵抗)

私たちが日常会話の中で使うのは「許し」です。「許す」とは、聞き入れる、自由にさせる、という意味です。対して聖書の中で過失や罪を巡って、他者との関わりの中で使われるのは「赦し」です。「赦す」とは刑罰や義務を免除する、という意味で使われます。

赦しは神からの命令です(マタイ6・9―15)。他者への「赦し」は「主の祈り」の中に含まれ、私たちが日々行うべき霊的営みとして定められています。

赦しについて、葛藤を抱えている人は、まず、「赦し」と「和解」を区別することが必要

なのか、自分なりにどのような結論を出すのか、考えてください。

他者や自分自身の未成熟さ、自己中心性を助長するような解決方法は「和解」ではありません。

「赦し」は無条件の恵み。「和解」はお互いの精神的、身体的安全性が確認された上に築かれる信頼関係です。そのため、「和解」は条件つきです。

相手と問題から自由になる

「赦し」は、相手のためではなく、自分自身にとっての福音です。相手があなたに負っている負債を取り立てる必要がなくなり、あなたは損害からの傷や、「被害者」という立場から自由になるのです。

負債の問題は、あなたと相手の問題ではなく、相手と神の問題になります(ローマ12・18―21)。「赦し」はあなたの未来を守る境界線です。

赦し難い人、出来事が、どんな人にもいくつがあるでしょう。自由になってください。あなたの人生は怒りや復讐ではなく、もっと良いもので形作られるべきです。

※『境界線(バウンダリーズ)』(ヘンリー・クラウド、ジョン・タウンゼント 共著、中村佐知 訳、地引網出版)